

卓越大学院プログラム 事後評価結果

機関名	北海道大学	整理番号	1801
プログラム名称	One Health フロンティア卓越大学院		
プログラム責任者	山本 文彦	プログラムコーディネーター	堀内 基広

卓越大学院プログラム委員会における評価

<p>〔総括評価〕</p> <p>S：計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。</p>
<p>〔コメント〕</p> <p>卓越した学位プログラム、「知のプロフェッショナル」を養成する体制等の構築については、地球レベルのOne Healthを課題とし、獣医学における欧米水準の国際認証も獲得し、獣医学、感染症学における4年制博士課程を中心に、北海道大学内の大学院間および、帯広畜産大学、酪農学園大学の大学間共通特別プログラムを構築している。また、WHO、WOAH、JICA等の国際機関や民間企業との研究連携のもと、高度な専門性ととも、リーダーシップ力、グローバルマインドセット、チームワーク力、俯瞰力を養成する4つのモジュールを組み、KPIは18項目中17項目でいずれも目標を大きく上回っている点も高く評価できる。</p> <p>修了者の成長については、20か国籍以上の留学生も含む教育環境のもと、学振特別研究員は4割程度を占め、多くの論文発表や受賞をしている。地球規模における人獣共通感染症の解決を目標とした本プログラムは、コロナの収束を機に、令和4年度以降、のべ189名の学生がインターンシップを含めた海外研修等を経験していることも特筆される。ほぼすべての学生がプログラムに満足し、国際感覚の向上を実感している。また、学生自身による海外インターンシップや共同研究の申入れ、招へい者とのコンタクト等が行われるなど、自主的なグローバルなネットワーク形成の教育効果も評価できる。修了生の追跡調査は15年後まで予定されており、その検証が期待される。</p> <p>キャリアパスの構築については、37名の修了生のうち、WOAH等の国際機関および、北海道大学の創成研究機構ワクチン研究開発拠点(IVReD)に助教として採用された4名をはじめ、多くがアカデミアにポストを得ている。今後は令和5年度に設置された学内共同施設One Health リサーチセンター(OHRC)により、ネットワーク構築が期待される。</p> <p>最終年度における履修生に占める留学生比率は57%と高い。One Healthの理念のもと、途上国等からのニーズが高いことの証左として評価しうるが、日本人学生と留学生とのバランスについては、一層の検討が求められる。</p> <p>大学院全体への波及効果及び事業の継続・発展については、本プログラムを契機とした人事の柔軟性を含めた多くの教育改革、システム改革等、その効果は大きい。令和4年度には「大学院教育推進機構」が設置され、全学的な取組としての意識改革が行われ、20余の異分野連携教育プログラムや国際共修プログラムが導入されている。補助期間終了後の財源は、OHRCの財源・収入の一部や大学ビジョン推進経費の充当や創基150周年記念人材育成事業の寄附金の活用などが予定され具体化されている。今後、One Healthの視点をもった社会科学系や情報系の学生教育について、One Health Ally Courseも含め、さらなる努力と工夫により拡大発展することが期待される。</p>